

第1編 川と水にかかわる「まつり」

第1章 調査概要

(1) 調査の目的と視点

日常の生活で、川や水はごく自然に身の回りにある。水のことを深く考えることはなしに、水という言葉が当たり前のように使用している。例えば、嫌なことは水に流すという。不幸にもこの世に生を受けずに生まれた子供は水子といい、人の一生の終焉には末期の水という。死後は三途の川を渡るといい、そして墓参には墓石に水を注ぐ。

早苗時の田植え祭り、夏の疫病払いを願った天王様の祭り、夏の夜の七夕祭り、収穫を祝う神への感謝を込めた秋祭りなど、生活の中での明るく楽しい祭りがある。

その一方で、農業の根幹を脅かす早魃や霖雨、人命を奪い生活基盤を押し流してしまう暴れ狂う洪水など、人知の及ばない気象現象に対する恐れや畏敬を込めた祈りの祀りがある。楽しいながらも水辺の危険を教えてくれる親子の寝物語としての河童伝説なども、これらにつながる身近な祀りといえよう。

雨乞いのように、農業水利施設や上水道の整備によって忘れ去られた「まつり」がある。一方、慰霊や街おこしを主眼に観光協会や行政主体などが中心となって行われる新しい「まつり」も生まれている。

このように、川と水にかかわる様々な「まつり」は発生・隆盛・衰退・消滅のいずれかの段階を辿っていると考えられる。こうしたことから、川と水にかかわる「まつり」について幅広く紐解くことにより、人々の川に対する思い、あるいはかかわりを知り、流域の文化を再確認することを目的に、治水や利水と「まつり」が生じた因果関係、歴史的経緯や信仰（こころ）の視点で、行事や儀式の内容や意味合いについて、2年度にわたる調査を行ったものである。なお、民話や伝承については調査の対象外とした。

(2) 調査の内容と方法

1) 調査の範囲と体制

調査の範囲は埼玉県全域を対象とし、調査の体制は彩の川研究会の会員有志 24 名が 6 つの班を編成した。1 班当たり 4 名で 2 箇所の県土整備事務所管内を担当し、県内 12 箇所の県土整備事務所管内の市町村を調査した。

調査の範囲と体制

調査班	調査範囲	調査者	代表的なまつりと調査件数
第 1 班	さいたま・越谷県土整備事務所管内 2 市	小林寿朗、丁子正久 保泉誠次、横倉輝夫	「戸ヶ崎の三匹の獅子舞」ほか 5 件
第 2 班	朝霞・川越県土整備事務所管内 7 市	小林満男、出村光雄 近藤雅彦、森 康人	「八咫神社（上寺山）のまんぐり」ほか 9 件
第 3 班	飯能・東松山県土整備事務所管内 4 市 2 町	木内勝司、星畑國松 桑島弘治、田中長光	「脚折の雨乞い」ほか 14 件
第 4 班	秩父・本庄県土整備事務所管内 1 市 2 町	尾崎邦夫、秋池 實 武井靖吉、前田猛彦	「秩父川瀬祭り」ほか 9 件
第 5 班	熊谷・行田県土整備事務所管内 5 市 2 町	小林眞五郎、尾花幸男 白倉 崇、岡部 勝	「葛和田のあばれ神輿」ほか 11 件
第 6 班	北本・杉戸県土整備事務所管内 6 市 5 町	佐藤英一、富田正美 安藤守昭、飯島敏之	「八坂神社の茅の輪潜り」ほか 11 件

2) 資料の収集と整理の方法

調査の最初の手掛かりは、地元市町村の教育委員会、寺社関係者及び地元の古老達への聞き取りである。川と水に係る行事、祭り、祀り等の実施の有無、また、記録の有無、「まつり」の概要を聞き取り、関係資料を収集した。調査の内容と精度を高めるために、地元図書館や県立図書館での文献収集、地元の博物館や郷土資料館などにも出向いて補足調査を行った。

これらの調査結果は、班ごとに、川と水にかかわる「まつり」に関する概要調査表を作成して整理した。平成 18 年度においては、25 市 11 町から 65 件の「まつり」に関する資料を得ることができた。

調査概要表 1 には、まつりの名称、所在地、起源（まつりの原因）、内容・状況（どのような事がなされるのか）、系譜・系統（まつりと他の箇所との関連）、趣旨（川や水との関係）をまとめた。概要調査表 2 には、まつりの状況や社寺・碑文を含めた資料や写真、現地案内図や位置図を整理した。これらの概要調査表から地域（班）ごとに川と水にかかわる「まつり」に関する調査一覧にまとめた（巻末資料参照）。

平成 19 年度においては、18 年度の調査成果をもとに、地域（班）ごとに代表的なまつりを抽出し、現地調査やまつりそのものの視察・参加、まつり関係者からの聞き取り調査を行い、まつりの詳細な内容やその意義等について調査を深めて、その結果をとりまとめた（第 3 章参照）。

第2章 「まつり」の分類と特徴

「まつり」そのものについては、多くの専門家や研究者が、地域の歴史的分野などにおいて調査・研究を進めている。そこで彩の川研究会としては、主として治水・利水とのかかわりに視点を置いて考察してみることにした。

25市11町から集めた65件の「まつり」がどのように分類できるか、どういう観点から分類したらよいのか大変迷った。例えば、漢字辞典で「まつり」にかかわる文字を引くと、祭り・祀り・奉り・政り等がみられ、類似・同義語となると祭礼・祭典・祭式・神事・大祭……等々数え切れないほどあげられる。また、「まつり」の祭神・祭主ごと、目的や集団と個人の分類方法も考えられるので、資料を持ち寄っては考察を繰り返した。

平成16・17年度に行った「碑文調査」の過程で、共同体の碑文の内容にはある程度の地域性と特徴を持って分布していることがわかっていたので、これらを参考に、「まつり」の主催者、「まつり」の目的から分類を試みた。また、産業の変化と「まつり」のかかわりについてその特徴を抽出してみた。

(1) 「まつり」の主催者

「まつり」の主催者は次のような3つの集団に分類される。一定の集団が共通の目的を基に行う願い事や祝い事等で、村全体・村の一部・村を越えた一連の結びつきの集団で、規模には大小の差異がある。

分 類	「まつり」の主催者
地域全体の「まつり」	・夏の疫病を払う等、地域全体が主催者となる
地域の中でも特定な地域の「まつり」	・治水・利水の特定受益者等、特定な地域が主催者となる
特定な職業集団の「まつり」	・船頭をはじめ舟運従事者等、特定な集団が主催者となる

(2) 「まつり」の目的

「まつり」の目的は、人々が生きていくため個人や地域全体の意思を表しており、祈り、願い、感謝、悲しみなど様々な感情の表れに関係している。「まつり」の祭神を調べていくと神話の中に出てくる神様や仏教行事につきあたるが、地域の生活基盤の視点で捉えてみると、次のような6つに分類できる。また、複数の目的が重複していることも多い。

分 類	「まつり」の目的
洪水・水難除け	・集落を洪水から守る、個人の水難事故を守る等
雨乞い・五穀豊穡	・農村社会の基盤である豊作の願いや感謝
禊ぎ・厄払い	・健康を喜び、夏の疫病を防ぐ
舟運の安全	・船の安全航行と感謝
慰霊	・戦災者慰霊
新しいまつり	・行政・観光と結びついた街おこし

(3) 産業と「まつり」の関係

産業との結びつきやそれを支える基盤との関係について、その特徴を概観すると次のような点が上げられる。

特定の職業集団のまつりがその興亡とともに衰退するといった例が見られる。河川改修が進むに従い舟運が困難となり、さらに対抗する鉄道交通や道路交通の出現が追い討ちとなり、舟運産業の衰退がはじまり、これと同時に平行して「まつり」が衰退しはじめる。しばらくは子孫が伝えているが、今日では文献でのみ見られる状況になっている。

事例として、新河岸川などの川沿いで盛んだった大杉信仰がある。信仰の対象である神様そのものが近くの神社に合祀され、主催者の船頭達の講も消滅した。

「雨乞い」のように農業の近代化とともに衰退した「まつり」もある。農業生産では水利施設の整備や品種改良、転作等によって、周期的な降雨に絶対的に頼らなければならない必然性が薄れ、「雨乞い」の神事や作法も文献上の資料で見ただけとなっているものや地元では既に忘れ去られているところも多い。

「雨乞い」は旱害の時に行われ、毎年行われるものでなく不定期に行われた。現在においても「雨乞い」の神事が実際に見られるものとして、「脚折の雨乞い」がある。先人達の苦勞や喜び、これにまつわる神事を子孫に伝えるため、地域の有志が伝統を復活させ、4年ごとにまつりが行われている。

比企地方には溜池の分布が特に多く見られる。その構造は丘陵地帯の水田の上流部を土堤で締め切る簡易な構造のため、人力によつての構築が可能であること、また、古くから鎌倉街道の上道が通っており、多くの人口を養う必要に迫られたことなどから、自然の生産性以上に稲作の生産性を高める必要性があり、多くの溜池がつくられたものと考えられる。また、同じ理由から、雨乞いも必要となり、このため多くの雷電神社が信仰されていたものと考えられる。

地元では忘れられつつある信仰を掘り起こして、新しくつくられた「まつり」もある。荒川で行われている長瀬の船玉祭りは、鉄道会社や観光協会が主催し、地元自治体が後押しして観光の活性化に貢献している。地域によっては経済の停滞・高齢化・過疎化などにより、「まつり」の継続に深刻な問題を抱えている実態があるので、こうした新たな「まつり」の掘り起こしが期待される。

資料収集を行った際に、「まつり」の起源、経緯、現状について聞き取りを行ったが、史実であるのに詳細はわからず、伝説化して内容が風化してしまったものもある。

いくつかの集落と集落の神が集まり、一つの「まつり」として成立していたものが、現在は各々が独立して神事を行っているものもある。

第3章 代表的な「まつり」

「まつり」の分類ごとに代表的なものを以下のように選定し、計19件のそれぞれのまつりごとに、現地調査や関係者からの聞き取り調査によってその詳細や特徴について整理した。

分 類	代表的なまつり
洪水・水難除け	3 - 1 . 香取・浅間神社の三匹の獅子舞 3 - 2 . 坂戸の祭りとその底辺を考える 3 - 3 . 獅子舞神楽・ササラ
雨乞い・五穀豊穡	3 - 4 . 脚折の雨乞い 3 - 5 . 氷川神社の餅搗き踊り 3 - 6 . 吉田棕神社の龍勢まつり
禊ぎ・厄払い	3 - 7 . 大宮氷川神社の橋上祭 3 - 8 . 氷川女体神社の名越の袷えと御船祭 3 - 9 . 八咫神社のまんぐり 3 - 10 . 我野神社の川瀬祭り 3 - 11 . 上・下阿久原地区のお精進 3 - 12 . 秩父川瀬祭り 3 - 13 . 八坂神社の茅の輪潜り
舟運の安全等	3 - 14 . 黒目川の伸銅業と金山信仰 3 - 15 . 葛和田のあばれ神輿 3 - 16 . 出来島のあばれ神輿
新しいまつり	3 - 17 . 長瀬船玉祭り 3 - 18 . 寄居玉淀水天宮祭 3 - 19 . 古利根川流灯祭り